

令和6年度 愛媛県立農業大学校評価システムシート

教育方針	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業に携わる者としての自覚を持ち、農業に取り組む自信と誇りを醸成する。 ○ 農業経営・農家生活に必要な専門的な知識、高度な技術及び幅広い教養を備えた人材を養成する。 ○ 地域農業のリーダーに必要な判断力、企画力、マネジメント力を養成する。 ○ 社会情勢の変化に対応できる視野と創造力・適応力を養成する。 	重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 魅力向上による入学生の確保、情報発信の強化 2 農業DX人材の育成 3 就農率の向上 4 学校環境の整備、学習意欲の喚起やメンタルケア 5 社会人農業教育の強化
------	--	------	--

目標	現状・課題	対策	評価項目	具体的方策及び評価指標	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合農学科の過去5年間（R2-R6年）の入学者数の平均は定員55人に対して44.4人（充足率80.7%） ・ R4に再編したアグリビジネス科の入学者数は、定員5人に対して、R4：7人、R5：3人、R6：1人 ・ R5年3月に、寮の個室化、保健室の設置、風呂の改修等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力向上による入学生の確保 ・ 総合農学科の魅力発信による定員の確保 ・ アグリビジネス科の魅力発信による定員の確保 ・ 魅力ある学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学生確保の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的方策 1 高校への訪問数及びエリアを拡大した早期訪問 2 オープンカレッジの開催（高校生、保護者、社会人対象） 3 高校進路担当教諭との意見交換 4 高校へ学生を伴った出前授業 5 えひめ愛顔の農林水産人からの農業の魅力発信 6 高校ガイダンスへの積極的な参加 7 魅力あるひめカレの発信 8 農業法人での学生受入等の連携強化 9 学生確保に向けたアンケートの実施 ○ 評価指標 1 高校訪問数（4月開始、41校以上） 2 オープンカレッジの開催回数（3回以上） 3 高校進路担当教諭との意見交換回数（1回以上） 4 高校へ学生を伴った出前授業（1回以上） 5 えひめ農林水産人との意見交換（2回以上） 6 高校ガイダンス参加率（100%） 職員と学生による高校ガイダンス参加（1回以上） 7 SNSによる情報発信（100件以上） 8 農業法人の連携協定と法人紹介（30法人以上） 9 高校2年生対象のアンケートを実施（1回） KPI：総合農学科入学生定員確保 55人 アグリビジネス科入学生定員確保 5人 	 A A A A A A A A A A A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次年度の課題 ①総合農学科の定員確保 ②アグリビジネス科の定員確保 ○ 改善策 ①受験生確保対策の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校へ「農業DX」教育の実施 ・ SNSによる情報発信の強化 ・ 早期の高校訪問 ・ 高校進路担当教諭との意見交換 ・ ひめカレ生の進路PR ・ 高校へ学生を伴った出前授業 ・ オープンスクールの時期・内容の見直し ②関係機関との連携（情報交換） <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業関係高校・組織との定期的な意見交換 ・ 各種イベントへの参加 ・ 就農相談会での情報提供 ・ 就農相談窓口への情報提供 ・ ハローワークへの情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひめカレのPRの一環として、卒業生で活躍している人、法人や営農指導等で頑張っている人などを紹介する何かを作成してはどうか。 ・ 高校訪問先とは関係が切れないように継続して欲しい。

達成度： A=100%以上達成、 B=100未満～80%以上、 C=80未満～60%以上、 D=60%未満

目標	現状・課題	対策	評価項目	具体的方策及び評価指標	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ・農業大学の存在や教育内容等が農業関係者以外には十分に知られていない。 ・SNSに対応した情報発信が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の強化 ・ひめカレの農業教育、強みを積極的に情報発信 ・即売市（ひめカレ市）等の開催による地域住民へのアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的方策 <ol style="list-style-type: none"> 1 ホームページ等を活用した積極的なPR活動 2 学校パンフレットの更新・配布 3 SNS(Instagram、Facebook、X)での情報発信 4 各種メディアを活用したPR活動の強化 5 ひめカレ直売市等の拡充による地域住民との交流 6 海外輸出やふるさと納税返礼品出荷等多様な校外販売実習とボランティアの参加 ○評価指標 <ol style="list-style-type: none"> 1 ホームページ更新回数（100回以上） 2 学校パンフレットの更新・配布（1回） 3 SNSによる情報発信（100回以上）（再掲） 4 各種メディアを活用したPR（5事例以上） ひめカレ発信による農業新聞投稿（10件以上） ひめカレプロモーション動画作成 愛顔のえひめ、市町やJA広報誌での発信（10件以上） 5 ひめカレ直売市等開催回数（30回以上） うちかんこっこマルシェ参加（9回） 6 校外販売実習、ボランティアの参加（4件以上） 	B A A A A D A A A A	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度の課題 <ol style="list-style-type: none"> ①広報活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・活動成果のアピール ・日々の活動の発信 ・地域活動への積極的な参加 ○改善策 <ol style="list-style-type: none"> ①校外イベント等への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・校外販売実習活動 ・ボランティア活動 ・高校へ学生を伴った出前授業 ②情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる情報発信強化 ・SNSの積極的な情報発信 ・市町、JA広報誌への掲載 ・ショート動画の作成・発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を作成するなら、賞を目指してコンテスト等に応募してはどうか。 ・直売市やマルシェは消費者と対面して意見を聞ける貴重な機会であるため、学生自身が作付け品目などを考えられるよう指導して欲しい。 ・海外輸出の実習は、農業基準の違いなどの経験が今後役に立つので継続して欲しい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業に関する講義や実習は実施しているが、データを活用した農業DXに関する取組みは実施できていない。 ・農業DXに関する講義（基礎、応用）及び実習等の総合的な取組みが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業DX人材の育成 ・次代を担う高度農業人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業DX人材育成のための取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的方策 <ol style="list-style-type: none"> 1 専門講師による農業DX講義の開催 2 農業DX講義と農業DX実習の一体的な実施 3 農業者や指導者を対象とした農業DX公開講座の開催 ○評価指標 <ol style="list-style-type: none"> 1 農業DXⅠ講義（1年生対象）の実施（4回） 農業DXⅡ講義（2年生対象）の実施（4回） 2 農業DX機材の活用を含む農業DX実習の実施（20回） 3 農業DX公開講座の実施（6回） <p>KPI：高度農業人材育成数 年100人</p>	A A A A	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度の課題 <ol style="list-style-type: none"> ①講師の選定とカリキュラムの編成 ②講義と実習の一体的な実施 ③デジタル技術を活用した実践的な教育 ④デジタルツールの活用に向けた環境整備 ⑤農業者等の受講生確保 ○改善策 <ol style="list-style-type: none"> ①農業DX教育の深化 地域の実情に応じた講師の選定 ②環境モニタリングシステム（果樹、野菜、水稻）による生産現場のデータ比較と分析 ③マルドリ栽培装置の導入、いちご高設栽培システムの更新 ④青果物品質測定器の導入 ⑤認定農業者等への働きかけによる受講生の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業DXはぜひ強化を続けて欲しい。 ・小規模農家ではDX機材の導入は難しいが、農大での経験はいずれ役立つ。

達成度： A=100%以上達成、 B=100未満～80%以上、 C=80未満～60%以上、 D=60%未満

目標	現状・課題	対策	評価項目	具体的方策及び評価指標	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
3	<p>・過去5年間(R2-R6)の就農率は46.6%と低調である。</p> <p>・本校の就農率は、全国平均を下回っており、R4年度の全国平均54.2%に対し、52.3%であった。(R5年度：本校42.1%)</p> <p>・近年、学生の非農家出身割合が高くなっており、卒業生の就農率向上のためには、農業法人就農を主とした雇用就農率の拡大が重要である。(令和6年度在校生非農家出身者73.2%)</p>	<p>学生に対する就農の向上</p> <p>・農業法人への就農を含む、卒業生の就農率の向上</p>	<p>・就農率向上のための取り組み</p>	<p>○具体的方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農業法人の就職説明会(マッチング)の開催 2 就職対策支援(研修・説明会等の実施) 3 農業の魅力調査等先進農家・法人経営との交流拡大 4 インターンシップの実施 5 各種資格取得の促進 <p>○評価指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農業法人就職説明会(マッチング)の実施(2回以上) 2 就職対策等特別講義の開催(20件以上) 3 農家と学生の交流企画実施回数(20回以上) 農業法人や先進農家への視察研修(1回) えひめ愛顔の農林水産人との意見交換(2回以上)(再掲) 農業関係高校と若手農業者との交流会参加(1回以上) 4 インターンシップ実施者数(10人以上) 5 資格取得に向けた特別活動 大型特殊自動車運転免許(2回以上) 危険物取扱者資格(乙種4類)(1回以上) 毒物劇物取扱者資格(農業用品目)(1回以上) <p>K P I : 就農率(農業法人含む) 60%以上</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○次年度の課題</p> <p>①就農率の向上</p> <p>○改善策</p> <p>①農業の魅力確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛顔の農林水産人との意見交換 ・青年農業者等との交流会の開催 ・儲かっている先進農家への視察研修 <p>②農業法人への就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業法人就職説明会の開催 ・農業法人とのマッチングの強化 ・就職対策特別講義の実施 ・インターンシップの実施 ・農業法人の視察研修 ・資格取得の促進 	<p>・各種資格はぜひ取得して欲しい。農大のサポートは手厚いため学生の間に頑張してほしい。</p> <p>・毒物劇物の合格者が今年増えている。</p>

達成度： A=100%以上達成、 B=100未満~80%以上、 C=80未満~60%以上、 D=60%未満

目標	現状・課題	対策	評価項目	具体的方策及び評価指標	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
4	・施設(S48年)が老朽化し、教育環境が悪化している。	学生のニーズに即した学校環境の整備 ・計画的な環境の整備	・学校環境対応に対する学生の満足度	○具体的方策 1 学生アンケートによる施設整備関係ニーズの把握 2 計画的な学習関連施設・機械等の整備 3 学生の希望図書の整備 ○評価指標 1 学生アンケートの施設整備関係満足度普通以上(70%以上) 2 学習関連施設・機械等の整備(3件以上) 校内Wi-Fiの整備(1件) 農業DX関連機材の整備(4件) 3 学生の希望図書の整備(農業電子図書館の活用)	B A A A	○次年度の課題 ①施設の老朽化 ○改善策 ①計画的な施設の改修 ②整備した機材の有効活用 ③農業DX関連機材の計画的な整備 ④農業電子図書館の有効活用	・以前に比べて機材等が充実している。
	・普通科等高校出身者は、入学当初の農業に関する知識が低い。(令和6年度総合農学科(S1)における、普通科等高校出身者割合36.6%) ・時代に対応した新たな知識や技術を学ばせる必要がある。 ・学校生活において、学生個々のメンタルケア及び健康管理指導が重要となっている。	学生の学習意欲の喚起とメンタルケア ・授業内容の充実 ・カウンセリングによるメンタルケア	・農業の基礎知識・先進技術の理解度と授業等に対する学生の満足度 ・カウンセリングの実施状況	○具体的方策 1 入学前学習の実施と基礎知識学力の指導、復習の支援 2 学生アンケートによる学生支援ニーズの把握 3 農業DX教育の実施(再掲) 4 時代のニーズに添った授業の実施 5 スクールカウンセラーの設置とカウンセリングの実施 6 健康管理指導の実施 7 学生に関する情報共有の強化 ○評価指標 1 総合1年の農業概論平均点(75点以上) 2 学生アンケートの授業関係満足度 普通以上(70%以上) 3 農業DX I 講義の実施(4回)(再掲) 農業DX II 講義の実施(4回)(再掲) 農業DX機材の活用を含む農業DX実習の実施(20回)(再掲) 4 海外輸出、GAP、有機農業関連授業の実施(3事例以上) 5 カウンセリング実施回数(20回以上) 6 健康管理に向けた啓発(5回以上) 7 定例会での情報共有(12回以上)	B A A A A A A	○次年度の課題 ①学習意欲の啓発 ②基礎学力の向上 ③先端技術への理解促進 ④メンタルヘルスケアの充実 ○改善策 ①理解度の確認と振り返り学習の実施 ②DX機材を活用した魅力ある実習 データ収集と分析、生産管理の実践 先進農家の事例研修 ③カウンセリングの実施 出席状況や授業・実習態度の情報共有 健康管理情報の提供	・寮は1人部屋が完備され、通いも可能となり、農大入学の選択肢が広がっている。

達成度： A=100%以上達成、 B=100未満～80%以上、 C=80未満～60%以上、 D=60%未満

目標	現状・課題	対策	評価項目	具体的方策及び評価指標	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
5	<p>・新規就農者や就農予定者など、就農段階に応じた各種講座を実施してきたが、デジタル技術やスマート農業など、時代に対応した研修内容の見直しや受講生が求められている。</p> <p>・学生及び社会人を対象とした農業機械士養成研修を実施し、農業機械士技能認定者を育成している。</p>	<p>社会人農業教育の強化</p> <p>・農業キャリアアップ講座の再編</p> <p>・受講生の掘り起こしと就農率の向上</p>	<p>・受講生の満足度の向上</p> <p>・受講生の就農率</p>	<p>○具体的方策</p> <p>1 HP、SNS、県広報への掲載、修了生による紹介、地方局や市町と連携した受講生の募集</p> <p>2 受講生のニーズに即した対応</p> <p>3 儲かる農業経営の紹介や就農相談等の充実</p> <p>4 農業機械士養成研修の実施</p> <p>○評価指標</p> <p>1 4講座の受講生確保（100%） （農業DX公開講座、農業担い手育成塾、農業やろう塾、農業革新挑戦塾）</p> <p>2 受講生の満足度（80%以上）</p> <p>3 就農率の向上 農業やろう塾修了者の就農意欲の向上（80%以上） 農業担い手育成塾修了者の就農率（80%以上）</p> <p>4 農業機械士技能認定の合格率（80%以上）</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○次年度の課題</p> <p>①受講生の確保</p> <p>②就農率の向上</p> <p>○改善策</p> <p>①多様な媒体を活用した受講生の募集 関係機関からの情報収集 修了生を通じ各地域で講座の紹介 講座情報の積極的な発信 県広報ツールの活用やSNSでの発信</p> <p>②儲かる農業経営の事例発信 愛顔の農林水産人との交流 先進農家での現地研修 修了生に関する情報の共有</p>	<p>・いきなり就農するよりも農業法人やJAの研修で始めると良い。</p>

達成度： A=100%以上達成、 B=100未満～80%以上、 C=80未満～60%以上、 D=60%未満